

ぼくの、萩市の活性化

第4期

テーマ設定の動機

「萩市の地域活性化」がテーマ

動機は...

萩市の人口減少、観光客数減少の事実を知ったこと

→ **自分の好きな故郷をなくしたくない！**

そんな思いからこのテーマができました

(2)近年の人口の推移

本市の平成21年(2009年)～令和元年(2019年)の住民基本台帳の人口の推移は以下のとおりです。
10年間で約9,300人減少しており、年平均930人前後で減少しています。



活動の内容

「地域みらい留学」を萩市の学校に取り入れるために。
をモットーに活動してきた。

Process of succeed

1. 市役所に手紙を通じて萩市大島で行われてた地域みらい留学について聞いた
2. 地域みらい留学の知識づめ👉都会人の声も調べた
3. 萩市で地域みらい留学するためのイメージ作成、工夫点の思考

1、市役所と校長先生に話を伺った

手紙を市役所に送って、以前に大島で断念された地域みらい留学について話と校長先生に萩高で地域みらい留学を行うならという話を伺いました。

Q&A

Q.なぜ断念されたのか？→A.コロナが原因 大島での環境形成が難しいかった
・島民の反対

Q.萩高で行うなら、どうすればよい？→A.県の承諾を得ないといけない
→萩市を地域みらい留学に適してる部分の紹介とかしたらい

萩市で地域みらい留学が
できるかも？！

2、地域みらい留学の知識づめ と都会人の思い調べ

都会人の声・・・田舎は不便、都会の方が絶対いい、交通期間の無さ、店が少ない

- 地域みらい留学とは...
- 日本の地方の学校で主に取り入れられており、地方の学校だからこそできる活動や経験を通して、これからの世を担うグローバルな人材形成を図ったシステム
- 例.田舎体験、親元を離れることで自立した生活、コミュニケーション力の向上、 探求活動ができる

~~~~~

### • **成功者続出！！**

- 例.この環境でしかできない新鮮な経験が多くあった。それを経てたくさんのものを得た。コミュニケーション力の向上や物事の捉え方考え方が広がる
- 人によって活動の分野が違うので感じ方は別々だが、その分野での成長をかんじることかできる。

32都道府県

4024人が参加

→(2021年)



# 3、イメージ作成、工夫点の思考

- さかなクン・・・井町賀空の地域みらい留学を創って見たら？
- →1、2を踏まえて、自分なりの地域みらい留学のイメージを考えました。
- 都会の人に田舎の雰囲気、空気、自然と景色の良さを味わって欲しい



# お世話になったひと

- はぎたんの大学生の皆様→はぎたんをはぎたん生のために日々企画してくださる
- 班員のみんな→定例をひらいてくださる大学生、探求活動を共に行う同士
- けんちゃんさんま→メールの書き方、アポの取り方を教わった
- 市役所の小野さん→市役所にメールを届ける際にたくさん協力をしてくださった
- 教育委員会の方々→同上
- すずかん先生→探求活動のアドバイスと萩を盛り上げたいという話をされたこと

# これから取り組みたいこと

自分の今の探求活動を大学生になっても引き続けたい。そして、萩市の地域活性化に繋げる！

→・地域みらい留学の活動をどんどん進めていきたい

・第1期から3期で考えた萩で実行したことをできる範囲で進めていきたい

# 学んだこと

- もともと、物事を見通しよく達成することが苦手で、やらなきゃいけないことがあっても、なかなか進めることができず、「まあ大丈夫やろ」と感覚で物事を進めていた。
- しかし、今期のはぎたんで市役所に手紙を送ろうとなつて、その時も感覚で物事を進めていたせいで、市役所に送るのがめっちゃ遅くなってしまった今までもそういうことがあった
- それらのことから、物事を感覚で進めるんじゃなくて、スケジュール帳を利用して、計画的に、物事の最悪な結果を考えて、危機感を持って進めていくことを気をつけていこうということ学びました